



昆虫生産・加工による地域資源循環と食糧確保への貢献

生物資源学部 助教 宋 相憲

私は昆虫の効率的な生産および有効活用注目しています。昆虫は、地域ごとに発生する未利用資源を飼料として活用できるだけでなく、その生産過程で排出される副産物は有機肥料として再利用可能であり、SDGsの目標2「飢餓をゼロに」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標15「陸の豊かさも守ろう」に貢献する資源循環型の食糧生産手段です。特に、ミールワームを対象とした研究では、島根県内で発生する未利用資源を用いた生産システムの開発を進めており、地域の行政機関や産業界と連携しながら、陸上養殖用飼料や動物飼料、有機肥料としての実用化に向けた取り組みが進められています。このような昆虫資源の活用は、食糧供給の多様化と持続可能な資源管理に寄与し、将来の食糧危機への備えとなることが期待されています。

